

「雑草と人の暮らし」

中山 祐一郎 先生 (大阪府立大学現代システム科学域環境システム学類)



春の七草の話から始まって、雑草ってなんだろうという問いかけがありました。野草、作物の間に雑草という分類がありますね。というお話でした。カブの原種は地中海周辺のムギ畑の雑草でした。

途中でヤナギタデという植物の実物を見せていただき、実際にかんでみて本当に辛いということを経験しました。そのヤナギタデの中にもいろいろな種類があって、それぞれの地域で様々なタデが作られているというお話でした (鮎タデ・ヤナギタデ・芽タデ)。そしてその

タデが、それを利用しなくなるとその種類が減ってきているということでした。

遺伝子組み換えの植物の話にもなり、組み替えられた植物そのものが野外へ逃げ出すということもありますが、遺伝子組み換え植物に導入された遺伝子そのものが野外の植物に入っていくという話もありました。

特定外来生物のオオキンケイギクやボタンウキクサの話の後、このような植物は人間が意図があるかないかに関係なく持ち込んだものであるということを知っておくことが必要であるという話でした。

雑草には対抗進化というものもあり、除草剤との話もありました。



最後に、白山国立公園生態系維持回復事業のお話でした。オオバコが高い山の上のハクサンオオバコと交雑が起きているということのをどのように調べていったかという話でした。また、その現象をどのように防いでいったらいいのかというお話にもなりました。

雑草は人と一緒に海外旅行や山に登っているというのが印象的でした。

生徒の感想

- ・タデがめちゃくちゃからかったです。
- ・さまざまな雑草の種子が穀物や飼料の中に混ざっているのだとわかった。
- ・雑草と言ったら役に立たないと思っていましたが、野菜の原種であったり、人の食に深くかかわっているのだなあと思いました。
- ・サラダ油のほとんどは遺伝子組み換えであると聞いてびっくりした。
- ・朝顔が外来というのは知らなかった。また、雑草の除草剤に対して抵抗性が高くなっているのにもびっくりした。